tok LOOKING AHEAD WITH NEW TECHNOLOGIES

平成25年5月8日

各　位

会　社　名 東京応化工業株式会社
代 表 者 名 取締役社長　阿久津　郁夫
コード番号 4186（東証第一部）
問 合 せ 先 広報部長　　安 生　　洋 己
TEL. 044-435-3000

東京応化工業グループ中期計画についてのお知らせ
― tok中期計画2015（2013年度～2015年度）―

当社は、2013年度(2014年3月期)から2015年度(2016年3月期)までの「tok中期計画2015」を策定しましたので、その概要を下記の通りお知らせいたします。

■ tok中期計画 2015（2013 年度～2015 年度）の概要 ■

2015 年度の数値目標

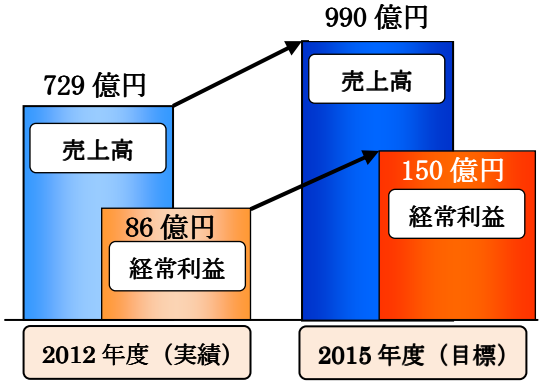
売　上　高	990 億円
営 業 利 益	150 億円
経 常 利 益	150 億円
当 期 純 利 益	110 億円

経営ビジョン

『高付加価値製品による感動を通じて、
世界で信頼される企業グループを目指す。』

tok中期計画 2015 の特徴

1. 過去最高益の更新（*）
2. 持続的成長の基礎となる事業基盤の強化



全社戦略

1. **各地域のユーザーとの密着戦略**
   世界の各地域のユーザーに密着して、より多くのニーズを掘り起こす仕組みを構築し、ユーザーが満足できる製品、サービスを迅速に提供する。

2. **事業ポートフォリオの変革**
   新規事業領域を開拓するほか、高付加価値製品比率を上げることにより、事業ポートフォリオを変革する。

3. **グローバル人材の開発**
   グローバルに活躍できる人材を創出、育成するためのプログラムを策定し、実行する。

（*）経常利益の過去最高益：13,670 百万円（1997 年度）。1997 年度の営業利益：12,852 百万円。

1．「tok中期計画2015」策定の背景

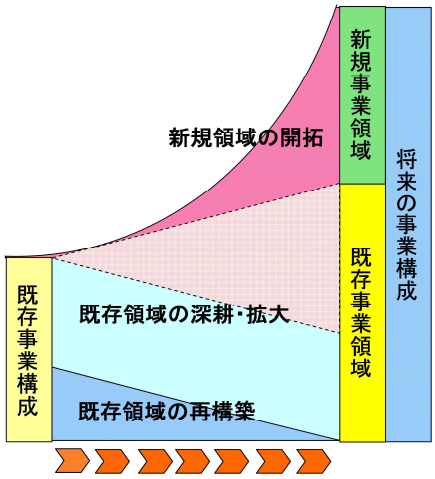
「“新生”東京応化の始動」のもと、「既存事業の拡大」、「既存事業の多用途展開」、「新規事業の創出」が可能となる『仕組み作り』と『仕込み』を進め、持続的に収益を向上させ、ステークホルダーから高い信頼を寄せられる企業を目指し、取り組んだ結果、厳しい外部環境の中においても「利益を確保できる筋肉質の体質」となり、一定の成果をあげることができました。

この筋肉質の体質をさらに強固にするため、2015 年度を最終年度とし、新たな経営ビジョンを掲げた「tok中期計画 2015」を策定しました。この中期計画の遂行を通して、株主の皆様をはじめ多くのステークホルダーの方々から高い信頼を寄せられる企業グループであり続けるよう取り組んでまいります。

2. 経営目標と重点戦略

(1)経営目標

「tok中期計画 2015」の経営目標は、『既存領域の深耕・拡大を図ると共に、新規領域の早期立ち上げを目指す。』としており、「2020 年のありたい姿」として、営業利益 200 億円を掲げております。



(2)重点戦略

上記経営目標ならびに 2015 年度の数値目標達成に向け、下記事項を重点戦略として取り組んでまいります。

収益強化ドライバーに対する取り組み

◆半導体用フォトレジストの成長持続。ArF の成長をベースとした事業成長。
◆先端実装プロセス関連材料のビジネス獲得。半導体実装材料の新規市場へのフォーカス等。
◆タブレット・スマートフォン用高精細パネル関連の需要獲得による LCD 材料の拡大。顧客基盤拡充等によるシェアアップ。
◆既存技術の多角的展開の継続、売上貢献。イメージセンサー・Ｓｉ系太陽電池関連材料等。
◆装置事業の収益回復、TSV 装置の事業本格化。2.5D、3D－IC 試作ラインへのアプローチ等。

事業ポテンシャル強化に対する取り組み

◆ArF(1Xnm)の開発強化、シェア確保。ワールドワイドベースでのシェア 30%超。
◆次世代剥離液の開発。2017 年 3 月期以降の量産に向けた対応。
◆再生可能エネルギー分野等の新規材料開発。太陽電池関連、二次電池関連、太陽熱発電関連等。
◆オプトエレクトロニクス分野への進出。

以　上